

# 天井桟敷の人々

てんじょうさじき

1979年フランスで選ばれたフランス映画史上ベストワン●1980年日本で選ばれた外国映画史上ベストワン  
いま、よみがえる傑作中の傑作！

第1部〔犯罪大通り〕●第2部〔白い男〕

3時間6分一挙上映 完全版ニュープリント

監督マルセル・カルネ  
脚本ジャック・プレヴェール  
撮影ロジェ・ユベール  
美術アレクサンドル・トロネ  
音楽アントワヌ・マイヨ  
指揮シャルル・ミュンシュ  
演奏コンセルヴァトワール管弦楽団  
パテシネマ製作(フランス映画)  
バウ・シリーズ  
フランス映画社提供



アルレッティ  
ジャン・ルイ・バロー  
ビエール・ブラスール  
マルセル・エラン  
ルイ・サルデーニャ  
マリア・カザレス  
ビエール・ルノワール

1979〈セザール賞〉  
フランス映画史上ベストワン  
1980〈キネマ旬報〉  
日本公開外国映画史上ベストワン

LES ENFANTS DU PARADIS

近日ロードショー

伊勢丹前シネ・タウン

新宿文化シネマ2

2008  
354

特別鑑賞券1200円  
好評発売中

一般1500円  
学生1300円  
の処



# 天井桧敷敷の人々

〔解説〕

脚本・台詞ジャック・プレヴェール、監督マルセル・カルネといえは「プレヴェール」カルネ作品」と呼びならわされるほどの映画史屈指の名コンビ。「霧の波止場」「悪魔が夜来る」、未公開の「おかしなドラマ」、『陽は昇る』と数々の傑作をうみだしているが、「天井桧敷の人々」は、この名コンビきわめつきの傑作中の傑作である。

1943年、独軍占領下で製作開始。非占領地区ニースのヴェイクトリーヌ撮影所に全長400mの大オーブン・セットを建てあげ、ヴェイシー政府の認可をえたパリでの撮影を主に進めるふりをしたりしながら、43年11月から44年の6月まで堂々半年以上におたる長期撮影を敢行して、パリ解放後の45年1月に全3時間6分の大作を完成した。直接製作費6000万フラン、カーニバル・シーンでの実働エキストラ18000人という製作規模にも驚かされるが、俳優・スタッフ陣の顔ぶれと実力の凄さも空前かつ絶後といえよう。

おほかさが美しく、美しさがおおらかな美女ギャランスのアルレッティをめぐってロマンと情熱の花を咲かせる天才パントマイム師パチストのパロ、豪放な役者フレデリックのブラッスール、犯罪詩人ラスネールのエラン、孤高の伯爵モントレイのサル。パチストをひたすら愛しつづけるナタリー役には、この映画で劇壇からデビューした20歳のマリア・カザレス。狂言まわしの古着屋ジュリコにビエール・ルノワール(ジャン・ルノワール監督の兄)。さらに助演陣のガストン・モドからジャンヌ・マルカンに至るまで、まさに当代一の役者ぞろい。79年パリでの映画人2000人によるフランス映画トキキ史上ベストテン、80年のキネマ旬報誌による日本公開外国映画史上ベストテンとともに第1位に選ばれ、今パリの再公開でも大ヒットをとばしているのも、「天井桧敷の人々」がうまれた時からの古典であり永遠の新作であることのない証明だろう。

ハリウッドでも、ヨーロッパ映画の傑作はリメイクのかつこの材料だが「天井桧敷の人々」に限っては、プロデューサーがいくら説得しても監督たちが誰も動こうとしないという。



傑作を世界からはこぶ  
パウ・シリーズ

フランス映画社提供



LES ENFANTS DU PARADIS

SCENARIO ET DIALOGUES  
DE JACQUES PREVERT  
UNE FILM REALISE PAR LA DIRECTION DE  
MARCEL CARNE

S.N.パテ・シネマ製作1945年度フランス映画  
マルセル・カルネ監督  
ジャック・プレヴェール脚本・台詞  
「天井桧敷の人々」  
LES ENFANTS DU PARADIS  
黑白スタンダード(1×1.33) 全11巻5100m  
第1部101分・第2部85分・全3時間6分

撮影	ロジェ・ユベール マルク・フォッサール	音楽	ジョゼフ・コスマ モーリス・ティエ ジョルジュ・ムーク	ギャランス	アルレッティ
録音	ロベール・テッセール	指揮	シャルル・ミュンシュ	パチスト	ジャン・ルイ・パロール
美術	アレクサンドルトローネ レオン・マルサック	演奏	コンセルヴァトワール管弦楽団	フレデリック	ビエール・ブラッスール
衣裳	レイモン・ガブッチ アントワーズ・マイヨ	編集	アンリ・リュス	ラスネール	マルセル・エラン
		製作	レイモン・ボルドリー	モントレイ伯爵	ルイ・サルネー
				ナタリー	マリア・カザレス
				古着屋ジュリコ	ビエール・ルノワール

〔第1部・犯罪大通り〕

時は18世紀なかば、所はパリでもつともよく人がにぎわうブルヴァール・デュ・タンブル、人呼んで「犯罪大通り」。芝居小屋と見世物小屋が軒をならべて人気を競い、そのまん前で大道芸人が人々の喝采をあびている。

美女ギャランスのがゆく。さつそく彼女をくどこうとするのは、わが将来はシエークスピア役者ときめこんだ青年フレデリック。ギャランスの旧知の詩人ラスネールは、戯曲を書くより、人生そのものを犯罪劇にしたることに情熱を燃やしている。フュナンピユル座の前で商人から金時計をすり盗ることなど朝めし前だが、疑われたのはギャランス。その疑いを見事なパントマイムで晴らしてみせる青年パチスト。パントマイムだけにすべてをうちこみフュナンピユル座の座長の娘ナタリーのひたすらな愛にも気づかぬパチストが、この時、ギャランスの一輪のバラの花に、激しく心を動かされた。

ピエロのパチスト、女神のギャランス、アルルカンのフレデリックがそろって舞台にたつフュナンピユル座はパリ中の人気を呼んで、特別席から天井桧敷まで超満員。特別席にはパリ社交界の花形、富と権勢で鳴るモントレイ伯爵の姿があった。伯爵はギャランスに自分の富のすべてを捧げると求愛して、にべもなくはねつけられるが、いざれ役に立つ時もあるとうこのした伯爵の名刺が、事実、ギャランスの急場を救うことになる。

〔第2部・白い男〕

数年後――。大劇場の一枚看板になったフレデリックの人気をしのぐのはフュナンピユル座のパチストだけだ。そのパチストを、毎夜特別席へおしるびでみくくる貴婦人がいる。モントレイ伯爵の愛人となったギャランスである。ギャランスのパチストへの変らぬ愛を知って、オセロ役に挑む決意を固めるフレデリック。パチストのギャランスへの変らぬ愛を知って、パチストの愛の実現を願いながら、自分と子供の幸福をまもろうとするナタリー。モントレイへの憎悪をテコにへん生の犯罪劇の最終章を準備するラスネール。犯罪大通りに大カーニバルの日が訪れる――。